

事業名 ようこそおそき事業



おそき DE プチ田舎暮らし体験 10月16日 稲刈り体験

1 実施団体 おそきの学校と地域を考える会

2 担当課 3 実施時期 4 参加者 5 実施場所

1) おそき DE 恋活(れんかつ)プロジェクト ⇒ 担当課 企画政策課

①8月7日 大人の恋活(ブルーベリー狩り&交流会)

- ・参加者 男女とも6名、スタッフ6名 計18名
- ・実施場所 市川ゴルフ所有農園にてブルーベリー狩り
小曾木5丁目の「カフェコンプリオ」で交流会



② 11月12日 うどん作り DE 恋活

- ・参加者 男女とも4名、スタッフ14名 計22名
- ・実施場所 富岡の井上さん宅でうどん打ち、天ぷらとうどん食事
乙黒耕地の横手さん畑でさつまいも掘り
小曾木3丁目の「こころ」で交流会



2) 女性活躍の市内への情報発信 ⇒ 担当課 市民活動推進課

① 12月7日 稲刈り体験での活躍状況発信（農林課との協働）

- ・「たまの魅力発信プロジェクトたま発！」たま発！ギャラリーにて
- ・参加者 女性9名、男性6名 計15名
- ・実施場所 富岡の井上さん宅



② 3月14日 青梅市自治会連合会支会長会議にて女性活躍状況発信

- ・参加者 女性1名、男性1名 計2名
- ・実施場所 青梅市役所内会議室

3) おそき DE プチ田舎暮らし体験 ⇒ 担当課 農林課、都市計画課

① 6月12日 田植え体験

- ・参加者 参加者合計142名（一般116名、スタッフ26名）
市内25組、市外18組 計43組
市外組数
【多摩8組】羽村2組、福生1、昭島1、立川1、日野1、国分寺1、
清瀬1
【都区内7組】大田1、世田谷1、中野4、板橋1
【埼玉県3組】さいたま市3
- ・実施場所 青梅市富岡（乙黒耕地）



②7月31日 田んぼの手入れ体験

- ・参加者：参加者合計44名（一般34名、スタッフ参加者10名）
12組（市内9組、市外3組国分寺市3）
- ・実施場所 青梅市富岡（乙黒耕地）



③10月16日 稲刈り体験

- ・参加者：参加者合計116名（一般95名、スタッフ21名）
合計35組、市内13組、市外22組。
- ・実施場所 青梅市富岡（乙黒耕地）



- 4) 簡易手づくりハイキングマップの作成 ⇒ 担当課 商工観光課
- 考える会のホームページ（小曾木地区紹介サイト）に飯能駅から七国峠を通過して岩蔵温泉までの行程の写真、地図などを掲載し、スマートフォンで確認しながらハイキングを行える形とした。



- <http://www.osoki-ome-tokyo.jp/hiking-hannou-iwakura/>

- 5) 空家バンク充実事業 ⇒ 担当課 住宅課
- 1月17日「奥多摩町の若者定住対策についてのワークショップ」
 - 奥多摩町の若者定住対策等について、奥多摩町役場の担当者から状況を聞くワークショップを実施した。
 - 参加者：20名
 - 実施場所 小曾木市民センター



- 6) 地域住民アンケート⇒ 担当課 市民活動推進課
- 小曾木地区住民の意識を調査するため、「小曾木地区総合意識アンケート」を小曾木地区全員（中学生以上）を対象に実施した。
 - 印刷冊数 5,000部（A3両面×2枚、2つ折り、印刷枚数換算2万枚）
 - 内容検討：考える会、自治会第6支会、青梅市
 - 小曾木市民センター印刷機にて印刷、第6中紙折り機にて折り作業
 - 配布回収協力：自治会第6支会（12月配布、1月回収）
 - 集計：考える会会員
 - アンケート対象者 3,192名（推計）、回収数 1,506、回収率 47.2%
 - まとめ作成、印刷：考える会
 - 報告先：自治会第6支会（自治会長会議にて）
青梅市自治会連合会（支会長会議にて）
地域住民（地域回覧にて）
青梅市（報告書配布、市長への報告は今後検討中）

6 事業の目的

- 1) 青梅市内でも人口減少の進行が早期に進んでいる小曾木地区で、その進行に歯止めをかけるための施策を実施し、子や孫の世代が住み続けたいと思える小曾木地区、青梅市へ近づけるよう行動する。
- 2) 地域の住む幸福度が実感しやすくし定住を促進、地域外の方々へ地域の良さをアピールし、実際に「来ていただく」「体験する」ことにより移住を促進する。
- 3) 「おそき空家バンク」から「青梅市空家バンク」へ、小曾木地区での先行施策の市内展開が図られるが、空家対策が難しい中、1件ずつ地道に一步一步対応を進め移住できる場所の確保へつなげる。



◎青梅市組織の複数の課との連携、「青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略」との連携を推進し、先行実施した結果の市内展開を図り青梅市全域の地域課題解決への足掛かりとしていただく。

7 役割分担

- 1) 団体の役割
 - ・事業の実施
 - ・市内他地域からの情報提供依頼への対応
- 2) 担当課の役割
 - ・事業実施へ向けての情報交換
 - ・事業実施へ向けての考える会への情報提供
 - ・市内（広報おうめ）、市外へ向けての情報発信（プレスリリース）

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

- 1) おそき DE 恋活（れんかつ）プロジェクト
 - ・出会いの場が2回設定でき、その後の交際につながった。
 - ・小曾木地区の場所と人の良さをアピールできた。
 - ・ブルーベリー狩り、さつまいも掘りなど体験型で特徴を出せた。
 - ・20～30代バージョンにプラスし、40代バージョンが設定できた。
 - ・参加者には高評価をいただけた。
- 2) 女性活躍の市内への情報発信
 - ・女性が活躍できる環境で、活躍している様子を発信できた。
 - ・小曾木地区は女性の活発な活動が支えていることを情報展開できた。
 - ・活躍されている女性自身の活躍の場がさらに広がっている。
- 3) おそき DE プチ田舎暮らし体験
 - ・田植え、田んぼの手入れ、稲刈りまでを一貫として実施できた。
 - ・農住調和を意識し地域外の方々への地域アピールができた。
- 4) 簡易手づくりハイキングマップの作成
 - ・飯能駅から七国峠、岩蔵温泉へのハイキングマップを作成した。
 - ・東部活性化を意識し埼玉方面から小曾木地区へ足を運ぶことに意識をすることに意識してもらうことができた。
- 5) 空家バンク充実事業
 - ・空家バンクの運用を充実させることには直接はつながらなかったが、奥多摩地区での充実した活動状況を知り、今後への足掛かりとなった。

6) 地域住民アンケート

- ・小曾木地区住民全員へのアンケートとしたことにより、地域課題について住民が意識する気持ちができる。
- ・自治会に協力いただけたことで、多数の対象者ながら約半数の方から意見を回収することができ、協力的な地域であることがわかった。
- ・地域住民にとっての不満は、交通が不便な面と買い物が不便な面に集中している状況がわかった。
- ・地域課題を自分たちの手で解決しようとする意識はまだまだかなり低い状況にあることがわかった。
- ・今後の小曾木地区が進むべき方向性がわかりやすくなった。

9 目標達成

事業の目標：

- ・小曾木地区の空家の空家バンク登録3件
- ・小曾木地区への移住へ向けた空家問い合わせ10件
- ・イベントの小曾木外からの視察目的来場者10名

目標の達成具合：

- ・小曾木地区の空家の空家バンク登録1件
- ・小曾木地区への移住へ向けた空家問い合わせ12件
- ・イベントの小曾木外からの視察目的来場者3名

◎事前に目標には設定しなかったが、地域住民の意識がアンケートによって思った以上にわかるとともに、地域住民自身が問題意識を持つきっかけになった。

10 事業の実施内容

1) おそき DE 恋活（れんかつ）プロジェクト

- ・「出会いの場の設定」
- ・小曾木地区を舞台に信頼感の高い出会いの場を女性中心に企画し創出
- ・さつまいも植え、手入れ、収穫までを一貫とした事業
- ・20～30代バージョンにプラスし、40代バージョンを設定実施

2) 女性活躍の市内への情報発信

- ・「女性が活躍できる環境づくり」
- ・考える会の女性の活発な活動の他地域への情報展開

3) おそき DE プチ田舎暮らし体験

- ・田植え、田んぼの手入れ、稲刈りまでを一貫とした事業
- ・農住調和を意識し地域外の方々への地域アピールに主眼をおいて行う

4) 簡易手づくりハイキングマップの作成

- ・飯能駅、青梅駅から岩蔵温泉へのハイキングマップの作成
- ・東部活性化を意識し地域外から小曾木地区へ足を運びやすくする事業

5) 空家バンク充実事業

- ・空家バンクの運用を充実させ、小曾木地区への移住を推進するとともに青梅市全体への展開を促進する事業

6) 地域住民アンケート

- ・小曾木地区住民への地域創生に関するアンケート&他地域への情報展開

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

| 調査項目 | 考える会 | 推進課 | 市民活動 | 考える会 | 企画 政策課 | 考える会 | 住宅課 | 考える会 | 農林課 |
|--------------------------------|------|-----|------|------|-----------|------|-----|------|-----|
| (1)事前の話し合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた | 4 | 4 | 4 | 4 | 3 | 3 | 4 | 4 | |
| (2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された | 4 | 4 | 3 | 3 | 3 | 3 | 4 | 4 | |
| (3)協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 | 4 | 4 | 3 | 4 | 4 | 4 | |
| (4)協働相手は適切だった | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | |
| (5)対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | |
| (6)協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | |
| (7)事業実施は円滑になされた | 3 | 4 | 4 | 4 | 3 | 4 | 4 | 4 | |
| (8)設定した目標が達成された | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 4 | |
| (9)協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | |
| (10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | |

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

- 1) 地域住民の方々、特に高齢な方々は様々な不安を抱えた中で生活されていることを実感した。ただ、自分が動いて何とかしようとするためには、活力を持って動くための動力源が必要であり、現状では、行政に依存する雰囲気強いことがわかった。右肩上がりで日本経済が大きくなっていった時代から、経済原理によって様々な部分が縮小場面へ転換し、社会構造の大きな変化になってすでに表れていて、行政の財源も縮小していることをもっと住民が意識できるようにしなければとも感じた。
- 2) 地域の課題はわかりやすくなったので、改善へ向けて未来の青写真を作成して住民への「見える化」を進めながら、次年度以降で取り組みたい。

13 その他

- ・特になし

以上